

# 校長室の窓から

令和6年5月9日  
明石台小学校長  
平田 喜秋 第1号

## たかがおじぎ、されどおじぎ

5月8日 朝会（校長の話）より

4月の始業式で校長先生は「明るいあいさつ」「いっしょうけんめい学び合い」「大好きな自分さがし」というお話をしました。皆さん、「あかいしだい」頑張っていますか？

校長先生は、朝、いろんなところの信号の近くで立っています。ほとんどの人がしっかり明るいあいさつをしてくれます。中には、校長先生から言われる前に、自分から進んで、一度止まって「校長先生、おはようございます。」と元気よくおじぎをしながら、明るいあいさつをしてくれる人がいます。「りっぱだな～、すごいなあ～」って思います。このようなあいさつを受けると、校長先生は朝からとても、いい気分になります。他の人や先生方も皆さんからそのような「明るいあいさつ」をされると、とってもうれしくなると思います。5、6年生の委員会の人たちも毎朝昇降口で元気よく「あいさつ運動」をがんばってくれていますね。これもとってもうれしいことです。6年生さん、ありがとう。

実は、みなさんにもう一つしてほしい「あいさつ」があるのです。それは、お家から学校に来る途中、または、学校からお家に帰る途中の「あいさつ」です。どんなあいさつか分かる？学校とお家との間には、何回か道路を渡る場所がありますね。そのときに、車は止まってくれますよね。その車が止まっているのを見て、道路を渡りますね。その渡り終わった時に、みなさんは、どうしていますか？そのまま歩いていく？その時に、その車に向かって、ぜひ、おじぎをしてから歩いてほしいのです。

なぜかという、そのおじぎをした子供を見て、車を運転する人は、「この子供は立派だなあ」「この子供を守ってあげないといけないなあ」「気を付けて運転しなければいけないなあ」って思うのです。



つまり、みなさんのおじぎ、立派なあいさつが、車を運転する人の交通安全につながっていきます。たかがおじぎだともうかもしれませんが、明石台小学校の子供たちみんなが、止まってくれた車におじぎをするようになったら、地域の人たちもそれを見て、「立派だなあ」「この子供たちを交通事故から守ってあげたいなあ」って思うはずですよ。たかがおじぎでって思うかもしれませんが、ちょっとしたことなのですが、「止まってくれてありがとう」のお礼の気持ちが、運転する人にきっと伝わるはずですよ。ほんとにちょっとした、おじぎ・あいさつが命を守ることもつながるんですね。もうすぐ運動会です。交通事故やけがに気を付けて生活していきましょうね。

※歩行者が横断歩道を横断する際は、車は一時停止することが義務なのだから、子供がお辞儀をする必要はない、という考え方もありますが、子どもと運転者の信頼関係を築き、事故の未然防止を図るという点では、「おじぎをすること」はむしろ良いことだと考えます。